

演 題

「あなたの会社を元気にしませんか  
〜『吉本』で学んだ人を動かす術を教えます〜」

# 三紘会 講演会

当金庫は5月13日、三紘会講演会を鹿児島市の城山観光ホテルで開催。吉本興業で横山やすしさんのマネジャーを務め、独立後は「よしもとリーダーズカレッジ」「志縁塾」を設立し、元気なリーダー養成や人材育成、企業活性化に取り組む“人材活性プロデューサー”大谷由里子さんが「あなたの会社を元気にしませんか〜『吉本』で学んだ人を動かす術を教えます〜」と題して講演しました。以下はその要旨です。

■演題 **あなたの会社を元気にしませんか**  
〜『吉本』で学んだ人を動かす術を教えます〜

■講師 **大谷 由里子氏**  
おおたに・ゆりこ  
人材活性プロデューサー

■プロフィール

1963年、奈良県生まれ。京都ノートルダム女子大卒業、吉本興業に入社。横山やすしのマネジャーを務め、宮川大助・花子などを売り出し注目を集める。88年、結婚のため退社。91年、企画会社を設立。98年に吉本興業とジョイントして「よしもとリーダーズカレッジ」を立ち上げ、2003年、研修会社の「志縁塾」を設立。現在は人材活性プロデューサーとして講演・研修、地域や企業の活性化に取り組む。主な著書に「元気セラピー」「『出会い力』の磨き方」「仕事で大事なルールは吉本興業で学んだ」など多数。



## 01. WANT(思い)とHOW(方法)で 自分の人生や会社を活性化

私は昭和60年に吉本興業に入社しました。当時、漫才ブームは終わっていましたが、売り上げも伸びて東京に進出するという時でした。社長の「優秀な人間は要らない。とにかく打たれ強そうな者を2、3人採っておけ」という一言に私が当てはまったようです。どこの会社に入ったかではなく、そこでどう生きていくかが大事です。吉本興業でたたき込まれたのは「戦略と戦術を立てられる人間になれ」「よく分からない人に分かるように説明しろ」という2つです。

どんな人生を歩きたいのかという戦略がないのにやる気は起きません。売りたいと思ったタレントしか売れません。誰かがやってくれると思ったら駄目。企業活動でも地域活動でも、自分で自分の会社、地域を元気にしたいと思うことがどれだけ大事か。WANT(思い)を持ち、HOW(方法)を考えたらいいのです。どうしたらうまくいくのか、どうしたら儲かるのか、どうしたら人を巻き込めるのかを考える癖をつけてください。

## 02. 楽しい時にとっている行動で 良い場、良い空気づくりを

横山やすしさんのマネジャーを担当しましたが、あの人ほど自分に甘く、他人に厳しい人はいません。とことん振り回されましたが、人と人との関係は「勘」が大切だということを学びました。上司からは「自分の物差しだけで世の中を見るな」と言われま

した。世の中にはいろんな人間、いろんな組み合わせがあります。人に仕掛けていくには、常に相手の行動・思考パターンを3つぐらい考えることで、人間関係の勘が磨かれます。

若手やベテランの芸人、大道具などのスーパー職人、気難しい構成作家などさまざまな人間が集まっている吉本興業では、彼らをうまく動かさないとプロデューサーの仕事はできません。そこで一番大事にしていたことは場づくりでした。良い場、良い空気をつくらうと努力しました。良い場をつくるには皆さんが元気にならなければいけません。楽しい時、盛り上がっている時の行動をとっているうちに不思議と楽しい気分になり、盛り上がってきます。

20年前は平均年齢27、28歳の国で、放っておいても盛り上がっていましたが、今や平均年齢47、48歳。放っておいたら盛り下がります。平成元年生まれの若者は生まれた時にはバブルが崩壊、物心ついた時に阪神淡路大震災と地下鉄サリン事件、多感なころに9.11、これから学生生活という時にリーマン・ショック、これから就職活動という時に東日本大震災が起きました。安定志向で怖がりの彼らが朝起きて会社に行くのが楽しい、地域活動は楽しいと思わせるぐらいの場づくりが大事です。

### 03. 阪神淡路大震災に遭って自らの使命と心の元気の大切さに気づく

吉本興業を私は25歳で結婚退社し、2年ほど専業主婦をやった後、自分で企画会社をつくりました。飛び込み営業から始め、世の中の厳しさを思い知らされましたが、めげずにやっていると1社、2社とお客さんがつき、売り上げも増えて社員も増えていきました。

会社を起す時はみんな夢と希望の固まりで元気です。起業の「起」は「己が走る」と書きます。でも会社は大きくなったら企業になります。「企」は「人を止める」と書きます。WANTで会社を始めたのに、私はあしななければいけない、これだけ売り上げないといけないとMUSTの塊になって、心の元気をなくしていました。私は良い場をつくることなど忘れ、一生懸命育てた社員が辞めていき、どうしたら自主的に動いてくれる人間、明るく前向きな人間をつくれるのか、悩みました。

そのころ阪神淡路大震災が起きました。私はあの日を境に「きのうはきょうを保証するものではない。きょうはあすを保証するものではない」と身をもって体験しました。倍々ゲームで伸びていた売り上げを95%なくしたのです。神戸に行くと、たった幅2、3mの道を挟んでこちらは全部全壊でみんな亡くなり、こちらはそのまま住んでいるという光景に出会いました。

31歳の時に生まれて初めて自分の脳が動き出しました。私はどうしてこの仕事をやっているのか、何を伝えたくてやっているのかと。何気なく生きているきょう1日、何気なく過ごしているこの数時間、これは誰かが生きたかった1日、過ごしたかった数時間かもしれない。そう思った時から人生と時間の意味が変わり、生まれて初めて「使命」という言葉に向かい始めました。自分の命を何に使って生きていくのか。きょう何かあっても後悔しない生き方は何なのか。この時から私は心の元気にこだわり始めました。自分の心が元気でないのに、本気で人の面倒は見れ

ない、いい仕事などできないと考えました。

### 04. うまくいかない時は感情や性格を変えるのではなく行動を変える

大切なのは、うまくいかない時、落ち込んだ時の立ち直り方です。感情や性格はそんなに簡単に変わるものではありませんが、行動はどうにでも変えられます。うまくいかない時に感情を変えるのではなくて行動を変えるのです。私は震災の時にお金も仕事もなかったのですが、神戸の社長さんたちが大変なのに笑わせてくれました。笑っているうちに元気になったのです。笑いの「わ」はゼロ、「い」は1のこと。0を1に出来るのが笑いの語源です。相手を笑顔にさせることがどれだけ大事な事か。

当時、お金も仕事もなかったけれど、私には時間が山ほどありました。部下に本気で働くこと、みんなで何かをするのは悪いことではないと伝えたくて書いたのが1年後、「吉本興業女マネージャー奮戦記」という本になり、いろんな出会いとチャンスももらいました。うまくいかない時に人のせいにするか、目の前に起こっていることを受け止めて、別の行動を起こせるかどうかでその後の人生が大きく分かります。

### 05. 自分たちで思いついたことを自分たちで形にすることで元気に

人と人との関係づくりには、人の心を開かせるコミュニケーションが大切です。コミュニケーションの基本は、共通点を見つけて膨らますこと。友達になりたいと思ったら一生懸命共通点を探します。コミュニケーションはバリエーションです。季節、道楽・趣味、ニュース、旅、知人、家族、健康、仕事、衣・食・住と色々な切り口を持っていたら誰とでも話題が弾みます。共通点を取り上げて話していくうちに盛り上がり、信頼関係を築けます。

人は、自分たちで思いついたことを自分たちで形にする時に元気になります。企業など組織も、思いつく人づくり、そのための環境づくり、さらに誰かが何かを思いついたらやってみようという空気をつくるのが大切です。

私は40歳で会社を後輩に譲り、教育研修を極めて志のある人間を応援していこうと10年前に「志縁塾」をつくりました。3年前の3月11日には仙台で研修中に東日本大震災に遭いました。タクシーを乗り継ぎながら18時間かけて東京まで戻りましたが、私はやり残したことを持って死にたくないと思い、本屋でいろんな本を見ているうちに会ったのが「日本でいちばん大切にしたい会社」という法政大学の坂本光司先生の本です。日本にはこんなに素敵で中小企業がたくさんあったのだ、こんなに頑張っている社長がいっぱいたのだなど気づき、去年3月に法政大学の政策創造科に入り直し、坂本ゼミで勉強しています。

人の命は本当にはかないものです。寿命は神様が決めているとしか思えません。でも人生の幅というのは自分でどうにでもできます。比べるのはきのうの自分で、皆さんがきのうより笑っているか、学んでいるか、動いているかを考え、部下とコミュニケーションをとってみよう、会社の空気を変えてみようと思っただけであればうれしいです。